

設置の趣旨等を記載した書類

添付資料 目次

資料 1	筑波大学分校設置に係る政府間協力覚書	2
資料 2	養成する人材像と教育の全体像.....	16
資料 3	コンピテンス一覧	17
資料 4	3つのポリシー	19
資料 5	カリキュラム・マップ	23
資料 6	課題解決科目における考え方ーデザイン思考の考え方ー	24
資料 7	実習等協力承諾書	25
資料 8	科目区分.....	43
資料 9	学際サイエンス・デザイン専門学群履修細則（案）別表第 1.....	44
資料 1 0	PBL を中心としたデータサイエンススキルセットの段階的獲得.....	45
資料 1 1	授業科目・担当教員と科目間連携	46
資料 1 2	2024／2025 学年暦（予定）	47
資料 1 3	卒業時に身に付けていることが期待される日本語能力.....	48
資料 1 4	学修プロセス	49
資料 1 5	高等教育機関への入学に関する要件（原文：マレー語）	55
資料 1 6	高等教育機関への入学に関する要件（参考：和訳）	58
資料 1 7	本部棟職員就業規則（抜粋）	61
資料 1 8	技術職員の配置状況.....	62
資料 1 9	URA の配置状況.....	63
資料 2 0	施設借用に関するマラヤ大学との基本合意書	64
資料 2 1	海外分校における FD 委員会及び SD 委員会の位置付け	73
資料 2 2	PBL 授業を柱とした教育による社会的・職業的自立に関する体制	74

資料1 筑波大学分校設置に係る政府間協力覚書

- ・ 在マレーシア日本国大使館ホームページ（【資料1】2ページ）
令和5年3月17日掲載のページを引用
「高橋大使の筑波大学分校設置に係る政府間協力覚書の署名」
https://www.my.emb-japan.go.jp/itpr_ja/newinfo_17032023.html
- ・ Ministry of Higher Education ホームページ（【資料1】3ページ）
令和5年3月15日掲載のページを引用（※マレー語のみ）
「Penubuhan Kampus Cawangan University Tsukuba Perkukuh Hubungan Malaysia-Japan」
<https://www.mohe.gov.my/en/broadcast/activities/penubuhan-kampus-cawangan-university-tsukuba-perkukuh-hubungan-malaysia-jepun>
- ・ 筑波大学分校設置に係る政府間協力覚書（写し）（非公開）（【資料1】4～15ページ）

School of Transdisciplinary Science and Design

－筑波大学マレーシア海外分校－

【養成する人材像】

データサイエンスを基軸とし、自然科学、人文社会科学の考え方、技術を広く環境・社会問題等に適用し、デザイン思考を踏まえつつ創造的に地球規模課題解決に貢献する人材

期待される進路：マレーシア国内日系企業(商社、金融関係、メーカー、環境コンサルタント等)、日本国内企業、国際協力団体・機関
筑波大学など日本の大学院進学、日本語・日本文化等教育機関 等

【身につける能力】

データサイエンスを理解し利活用できる能力

地球規模課題解決の観点から、
自然科学、人文社会科学を理解し利活用できる能力

多様な他者に敬意を払いつつ円滑な
コミュニケーションをとる能力

環境学を理解し地球規模課題解決の
ために利活用できる能力

日本文化や伝統の理解を通じた多様
な価値観に基づき思考する能力

課題解決型学修：Problem Based Learning (PBL)

研究日本語科目群

自然科学科目群

データサイエンス科目群

人文社会科学科目群

日本文化科目群

【求める学生像】

- マレーシア及び東南アジア域等において顕在化する地球規模課題とその解決に、強い関心と意欲を持っている
- 地球規模課題解決のために自然科学及び人文社会科学を学ぶことに関し、関心と意欲を持っている
- 客観的なデータや資料に基づき情報の適否を判断し、自身の考え方を合理的にまとめることに関し、関心と意欲を持っている
- 日本語や日本文化に関心を持つとともに、異なる価値観や考えを尊重することができる

社会的ニーズ
グローバル人材の必要性
地球規模課題解決人材の必要性

我が国の高等教育の課題
真のグローバル化の遅れ
課題解決型人材育成の遅れ

筑波大学の強み
学際性と国際性
教教分離 学位プログラム制

学際サイエンス・デザイン専門学群 <学士（学術）> コンピテンス一覧

■汎用コンピテンス（本学学士課程共通）

1	コミュニケーション能力	母語や外国語を適切に用いるとともに、各種メディアを利用したプレゼンテーション等を行うコミュニケーション能力
2	批判的・創造的思考力	一般的・専門的知識の体系的理解をベースに批判的・創造的に思考する能力
3	データ・情報リテラシー	様々な事象や情報を数量的手法やコンピュータ等を用いて適切に解析・処理する能力
4	広い視野と国際性	自身の専門に留まらず文化・社会と自然・物質に関して幅広く理解し、異文化を理解・尊重する能力
5	心身の健康と人間性・倫理性	芸術やスポーツへの理解と実践等を通して心と身体の健康を保ち、人間性と倫理性を有する市民としての責任を自覚して実践する能力
6	協働性・主体性・自律性	チームワークやリーダーシップを通して様々な物事に対処し自己を管理しながら自律的に学び続け行動する能力

■専門コンピテンス

1 データサイエンスを理解し活用できる能力		
1.1	数学の基礎能力	微積分、線形代数等、高等数学の基礎を理解し、自然科学や人文社会科学に関わるデータ解析に利用する能力
1.2	統計学の基礎能力	統計学の基礎を理解し、自然科学や人文社会科学に関わるデータ解析に利用する能力
1.3	ICTやAITを活用する能力	自ら扱っている課題について、そこで集積されている様々な情報をどのように整理すればICTやAITを活用できるか理解するとともに、実際に必要な情報整理を行い、これらを利活用する能力
AIやビッグデータなど、これからの地球規模課題へのアプローチには科学的データに基づくデータサイエンスの能力が不可欠である。そのために、初年次から情報リテラシーや数理学の基礎から応用までを体系的に学ぶ科目を設定する。		
2 地球規模課題解決の観点から、自然科学、人文社会科学を理解し活用できる能力		
2.1	基礎学理としての自然科学の基礎に関する理解	自然現象や様々な事象を論理的に理解、説明するために、基礎学理としての自然科学を利活用する能力
2.2	人文社会科学の基礎に関する理解	人々に関わる様々な社会現象、社会問題等を論理的に理解、説明するために、人文社会科学を利活用する能力
地球規模課題は、SDGsに代表されるように人間の生存に関わるあらゆる領域に跨っている。そのため、ある課題が生じる背景を正しく理解するために自然科学や人文社会科学の知見が必要である。これらの科目群については、講義形式のほかディスカッション、フィールドワークなどアクティブラーニングに基づく教授方法を採用し、PBLとの接合を図りながら進行する。		
3 環境学を理解し地球規模課題解決のために利活用できる能力		
3.1	環境問題とその解決に関する理解	人類がこれまで経験した環境諸問題のメカニズムと解決法を、自然科学、人文社会科学の知識に基づき理解し、さらに地球規模課題解決に結びつけて考察する能力
3.2	地球規模での自然現象・人為課題に関する理解	地球規模課題に関し、自然科学と人文社会科学を統合した環境学の基礎知識と技術をもって理解する能力
3.3	課題の設定ができる能力	探求し解決すべき課題を設定し、課題を理解するために必要な知識の修得と、課題解決に向けた諸要因の整理に関する方向性を定める能力
3.4	Transdisciplinaryな思考能力	自然災害や人為的な環境変等諸課題が、互いにどのように関連しているかを理解するとともに、地球規模課題を専門的かつ俯瞰的に理解、説明し、その解決策を考察する能力
地球規模課題は、地球温暖化と気候変動が人間の生活環境の変化に重大な影響をもたらし、生じている側面は否定できない。そのため、環境学における知見に触れながらそれとの因果関係において地球規模課題を考察できる科目を設定する。		
4 多様な他者に敬意を払いつつ円滑なコミュニケーションをとる能力		
4.1	国際的にも活躍できるコミュニケーション能力	幅広い教養をベースに、異なる文化や考え方を背景とする人々と、円滑に英語、母語、日本語により、コミュニケーションをとる能力
4.2	プレゼンテーション能力	自分の考えを、異なる文化や考え方を背景とする第三者に論理的かつ明確に説明することができる能力
4.3	柔軟な理解能力	幅広い教養をベースに、異なる立場、あるいは対立する立場にいる人々の考えや論理を理解する能力
4.4	自主性と行動力	問題に対して柔軟な思考を行い、かつ深い洞察に基づいて主体的に行動する能力
ある課題について十分な教養を踏まえた考察において自らの見解を持ち、それを論理的に説明し、同時に異なる他者の意見を聞き、互いに討議しあえるコミュニケーション能力は重要である。そのため、上記項目2に関わる授業やPBLにおけるアクティブラーニングでは、グループワークによるプレゼンテーションとディスカッションを重視して行う。さらに、英語と母語に加え第三言語として日本語を学び、初年次から日本語によるコミュニケーション能力を育成する科目「研究日本語基礎」を設定する。		
5 日本文化や伝統の理解を通じた多様な価値観に基づき思考する能力		
5.1	日本文化や伝統の理解	日本文化や伝統を理解し、これらを英語、母語、日本語により紹介する能力
5.2	多様な文化や価値観の理解	様々な国籍の人々の文化的背景を互いに理解、尊重するとともに、多文化共生に必要な制度や考え方を考察し、地球規模の視点に立ち、人類の多様な背景、文化への理解を深化させる能力
アジアにおける経済大国としてこれまでに日本が蓄積してきた技術や経験値には、成功事例も失敗事例も多く含まれるが、これらはあらためて日本、マレーシアともに十分に学ぶべき価値が大きいと考える。日本の大学である本学が有するリソースを生かして、日本の文化や伝統を含めた背景とともにマレーシアにおいて教授することは、日馬を架橋し、かつ国際的に活躍する有為な次世代を育成するうえで重要な使命である。そのため日本語の科目に加え日本文化や武道などを学ぶ科目を設定する。		

【3つのポリシー】

ディプロマ・ポリシー

筑波大学学士課程の教育目標に基づき、必要とされる知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ学際サイエンス・デザイン専門学群の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（学術）の学位を授与する。

1. データサイエンスを理解し利活用できる能力を身につけている。
2. 地球規模課題解決の観点から、自然科学、人文社会科学を理解し利活用できる能力を身につけている。
3. 環境学を理解し地球規模課題解決のために利活用できる能力を身につけている。
4. 多様な他者に敬意を払いつつ円滑なコミュニケーションをとる能力を身につけている。
5. 日本文化や伝統の理解を通じた多様な価値観に基づき思考する能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー

学士（学術）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

1. 人文社会科学の基礎、日本文化と社会の理解、自然科学の基礎、データサイエンスの基礎学理となる数学やプログラミング、統計の基礎と応用に関する授業科目を設定する。特に、データサイエンスを基軸として思考・実践できるようにするための配慮として、情報リテラシー及びデータサイエンスを1年次に配当した後、これらの科目で修得した内容を、課題解決型学修を行う科目で利用・応用するようにして経験を積むことでデータサイエンスを深く理解するためのレディネスを涵養し、3年次でデータサイエンスに関連して基礎となる数学を配置することで理解を深められるようにする。
2. 時事課題に関する論考や課題解析、課題解決法の提案などに関する演習を、課題解決型学修で実施する授業科目として構成し、十分な学修量（単位数）を確保して設定する。これらの演習は入学当初から3年次まで配当する。4年次は3年次までに涵養した能力と、学生各自が選択した問いを探究すべく卒業研究を実施する。
3. 本学で定める共通科目として必要な総合科目3科目、体育、外国語、情報リテラシーとデータサイエンスを配当し、本学学士課程において共通に修得すべき能力を涵養する。
4. マレーシアにおける高等教育政策に基づき、マレーシアの社会や言語等に関する科目を配当する。

（次頁に続く）

5. データサイエンスを基軸として各授業科目間の連携を明確にし、自然科学基礎、人文社会科学基礎、日本語と学問等の専門基礎科目で学んだ知識、技術が、時事課題解析演習、時事課題解決法提案演習等の課題解決型学修において有用であることを学生が理解できるようにする。
6. 課題解決型学修を行う科目及び卒業研究の各年次末において、学修成果を報告する発表会を実施する。各学生には、学修成果が可視化できるレポートを提出させ、また学修成果に関する口頭発表を課す。これらの内容により各学生の学修成果を評価する。

アドミッション・ポリシー

本専門学群の人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、求める学生像と入学者選抜方針を次のように定める。

(求める学生像)

1. マレーシア及び東南アジア域等において顕在化する地球規模課題とその解決に、強い関心と意欲を持っている。
2. 地球規模課題解決のために自然科学及び人文社会科学を学ぶことに関し、関心と意欲を持っている。
3. 客観的なデータや資料に基づき情報の適否を判断し、自身の考え方を合理的にまとめることに関し、関心と意欲を持っている。
4. 日本語や日本文化に関心を持つとともに、異なる価値観や考え方を尊重することができる。

(入学者選抜方針)

求める学生像及びマレーシアにおける大学入学者選抜の方法等を考慮し、詳細な書類審査と丁寧な面接を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学修に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定する「総合型選抜」による選考を行うこととし、「Aptitude-based Scheme (適性入試)」及び「School Recommendation Scheme (推薦入試)」による選抜を実施する。

- Aptitude-based Scheme (適性入試)： 全般的な基礎学力と、データサイエンスを学ぶ上で必要となる高度な理解力、思考力、地球規模課題への関心と表現力等を総合的に評価する。
- School Recommendation Scheme (推薦入試)： 高等学校等において優秀な成績を修め、地球規模課題解決への高い関心と学修意欲等があること、かつ日本語で学ぶ素養があることを総合的に評価する。

3つのポリシーの相関及び授業科目との関係

ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果

【本学学士課程共通】

コミュニケーション力、批判的・創造的
思考力、データ・情報リテラシー、広い
視野と国際性、心身の健康と人間性・
倫理性、協働性・主体性・自律性

【DP1】

データサイエンスを理解し活用で
きる能力を身につけている

【DP2】

地球規模課題解決の観点から、自然
科学、人文社会科学を理解し活用
できる能力を身につけている

【DP3】

環境学を理解し地球規模課題解決
のために活用できる能力を身に付
けている

【DP4】

多様な他者に敬意を払いつつ円滑
なコミュニケーションをとる能力を
身につけている

【DP5】

日本文化や伝統の理解を通じた多
様な価値観に基づき思考する能力
を身につけている

【CP3】 →本学学士課程共通の汎用コンピテンスを涵養する科目の配置に関する方針

本学で定める共通科目として必要な総合科目3科目、体育、外国語、情報リテラシーとデータサイエンスを配当し、本学学士課程において共通に修得すべき能力を涵養する。

【CP1-1】 →DP1～DP5に対応する科目群(PBL科目を除く)の設定方針

人文社会科学の基礎、日本文化と社会の理解、自然科学の基礎、データサイエンスの基礎学理となる数学やプログラミング、統計の基礎と応用に関する授業科目を設定する。

【CP1-2】 →DP1の教育課程への具体化の方針

特に、データサイエンスを基軸として思考・実践できるようにするための配慮として、情報リテラシー及びデータサイエンスを1年次に配当した後、これらの科目で修得した内容を、課題解決型学修を行う科目で利用・応用するようにして経験を積むことでデータサイエンスを深く理解するためのレディネスを涵養し、3年次でデータサイエンスに関連して基礎となる数学を配置することで理解を深められるようにする。

1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前・後
ファーストイヤーセミナー 学問への誘い	社会と職業	自然科学基礎I 人文社会科学基礎I	自然科学基礎II 人文社会科学基礎II	自然科学通論I 人文社会科学通論I	自然科学通論II 人文社会科学通論II	
基礎体育	応用体育					
研究日本語基礎I-A 研究日本語基礎I-B	研究日本語基礎II-A 研究日本語基礎II-B	日本語と学問I	日本語と学問II	日本文化コミュニケーションI	日本文化コミュニケーションII	
情報リテラシー(講義) 情報リテラシー(演習)	データサイエンス			データサイエンスのための線形代数 データサイエンスのための解析学	データサイエンスのためのシステム理論	
統計学基礎	実践統計					
時事課題論考演習I	時事課題論考演習II	時事課題解析演習I	時事課題解析演習II	時事課題解決法提案演習I	時事課題解決法提案演習II	卒業研究
Philosophy and Current Issues, Appreciation of Ethics and Civilisations, Malay Language Communication II, National Language A						

【CP6】 →学修成果の評価に関する方針
課題解決型学修を行う科目及び卒業研究の各年次末において、学修成果を報告する発表会を実施する。各学生には、学修成果が可視化できるレポートを提出させ、また学修成果に関する口頭発表を課す。これらにより各学生の学修成果を評価する。

【CP2】 →DP3を中心とした総合的な学修成果の実現に向けた課題解決型学修(PBL)科目群の設定方針

時事課題に関する論考や課題解析、課題解決法の提案などに関する演習を、課題解決型学修で実施する授業科目として構成し、十分な学修量(単位数)を確保して設定する。これらの演習は入学当初から3年次まで配当する。4年次は3年次までに涵養した能力と、学生各自が選択した問いを探究すべく卒業研究を実施する。

【CP4】 →マレーシアの高等教育政策に基づく科目配置の方針

マレーシアにおける高等教育政策に基づき、マレーシアの社会や言語等に関する科目を配当する。

【CP5】 →CP1～CP4に基づき配置する科目の相互連携に関する方針

データサイエンスを基軸として各授業科目間の連携を明確にし、自然科学基礎、人文社会科学基礎、日本語と学問等の専門基礎科目で学んだ知識、技術が、時事課題解析演習、時事課題解決法提案演習等の課題解決型学修において有用であることを学生が理解できるようにする。

DP3に繋がる学修へのレディネス

DP2に繋がる学修へのレディネス

DP1に繋がる学修へのレディネス

DP4,5に繋がる学修へのレディネス

【AP1】

マレーシア及び東南アジア域等において顕在化する地球規模課題とその解決に、強い関心と意欲を持っている

【AP2】

地球規模課題解決のために自然科学及び人文社会科学を学ぶことに関し、関心と意欲を持っている

【AP3】

客観的なデータや資料に基づき情報の適否を判断し、自身の考え方を合理的にまとめることに関し、関心と意欲を持っている

【AP4】

日本語や日本文化に関心を持つとともに、異なる価値観や考え方を尊重することができる

アドミッション・ポリシーに掲げる求める学生像

カリキュラム・ポリシー／授業科目

【CP1】 DP1～DP5に対応する科目群の具体的な設定

【DP1】 データサイエンスを理解し活用できる能力を身につけている

→ 地球規模課題へのアプローチに必要な科学的データに基づくデータサイエンスの能力とそれを活用できるスキル

- ・情報倫理、セキュリティ、計算基礎、コンピュータ、インターネット、文書作成、SNS、プレゼン
- ・データ収集・管理・可視化・分析
- ・確率論、確率変数、確率分布、中心極限定理、記述統計学、推測統計学、有意性検定、回帰分析
- ・統計学、仮説検定、実験計画、パラメータ最適化

- ・自然科学の教養を学びながら、根底にある数理とデータサイエンスの繋がりを理解することで、数学の基礎的理解に対する明確な動機付けを得る

- ・ベクトル、行列、固有値、座標系、多変量正規分布微積分、Newton法、期待値計算、曲率、多重積分、ベクトル場
- ・ダイナミクス、ダイナミカルシステム、システム理論、状態空間、予測、制御、システム同定

情報リテラシー、データサイエンス、統計学基礎、実践統計

自然科学基礎I、自然科学基礎II

データサイエンスのための線形代数、データサイエンスのための解析学
データサイエンスのためのシステム理論

【DP2】 地球規模課題解決の観点から、自然科学、人文社会科学を理解し活用できる能力を身につけている

→ 課題が生じる背景を正しく理解するために必要となる自然科学や人文社会科学の知見

- ・地球環境学、分子細胞生物学、マテリアルサイエンス、AI・ロボティクス
- ・生態系、生物資源、代謝工学、微生物学、電磁気学、量子力学
- ・環境汚染、都市問題、ライフサイエンス、固体物理学、画像処理、音声処理
- ・気候変動適応、グリーンテック、画像認識、自然言語処理

- ・異文化コミュニケーション、翻訳、言語学、文学、文化学
- ・教育学、障害科学、政治学、政治学の研究方法、保健福祉、健康医療、スポーツ科学、共生社会、社会モデル
- ・ポスト・コロナリズム、ジェンダー、セクシュアリティ、翻訳、翻案、言語、非言語、異文化適応
- ・研究方法、定性調査方法、定量調査方法、健康医療、障害科学、保健福祉、組織経営、経営戦略

自然科学基礎I、自然科学基礎II 自然科学通論I、自然科学通論II

人文社会科学基礎I、人文社会科学基礎II、人文社会科学通論I、人文社会科学通論II

【DP3】 環境学を理解し地球規模課題解決のために活用できる能力を身につけている

→ 環境学の知見に触れながら地球規模課題との因果関係について考察できる

- ・環境問題の根幹である汚染・都市問題の基礎事項を学びながら、それに結びつく健康や感染症の問題、課題解決の技術面で縦横となる固体物理学・化学の知識、情報伝達の基礎である画像、映像、音声伝達の技術を学ぶ
- ・気候変動下での自然災害、気候変動適応についての動態、予測、対策、施策等の知識や技術に加え、well beingの実現に不可欠となる生活習慣病や再生医療等を理解し、グリーンテクノロジーにより解決し、各種媒体により情報を共有する道筋を理解する、

- ・地球規模課題解決のために必要となる知識について、より深い理論的理解と運用手法を身につけ、実践的なアプローチが課題解決にどのように役立てられるかについて考える。

自然科学基礎I、自然科学基礎II、自然科学通論I、自然科学通論II

人文社会科学基礎I、人文社会科学基礎II、人文社会科学通論I、人文社会科学通論II

【DP4】 多様な他者に敬意を払いつつ円滑なコミュニケーションをとる能力を身につけている

→ 課題について十分な教養を踏まえた考察において自らの見解を持ち、論理的に説明、異なる他者の意見を聞き、討議しあえるコミュニケーション能力

- ・生涯に渡り健康・体力を維持増進するための知識と実践力
- ・規範遵守、チームワークの重要性、創造性・表現性・社会性
- ・生涯に渡りスポーツを継続できる運動技能やスポーツの価値

- ・日本語、自然科学・人文社会科学に関する日本語の読み物通して理解する、異文化理解能力
- ・日本文化の「間」「型」についての知識を深め、フィールドワークを通じてコミュニケーション上の意味を考える、
- ・学術的な日本語運用能力

基礎体育、応用体育

日本語と学問I、日本語と学問II、日本文化と社会の理解I、日本文化と社会の理解II
日本文化コミュニケーションI、日本文化コミュニケーションII

【DP5】 日本文化や伝統の理解を通じた多様な価値観に基づき思考する能力を身につけている

→ アジアにおける経済大国として日本が蓄積してきた技術や経験智を日本の文化や伝統を含めた背景とともに理解する

- ・柔道や剣道を通して、歴史・文化的背景、礼節、基本動作を学ぶ
- ・柔道の基本知識と技、剣道の基本知識と技

- ・日本語×地球環境・翻訳・健康・ライフサイエンス・言語学・障害・マテリアルサイエンス・文学・政治・AI・ロボティクス、映画・福祉・異文化コミュニケーション・教育・スポーツ
- ・日本の伝統文化と現代文化、他文化との比較、多文化理解
- ・日本文化、日本社会、マイノリティ、ダイバーシティ、教育課題、比較

応用体育

日本語と学問I、日本語と学問II、日本文化と社会の理解I、日本文化と社会の理解II
日本文化コミュニケーションI、日本文化コミュニケーションII

課題解決に必要なデザイン思考の考え方や方法論を、課題解決型学修を通じて段階的に身につける

「課題の設定」

時事課題論考演習I, II

「問題解決策の策定」

時事課題解析演習I, II

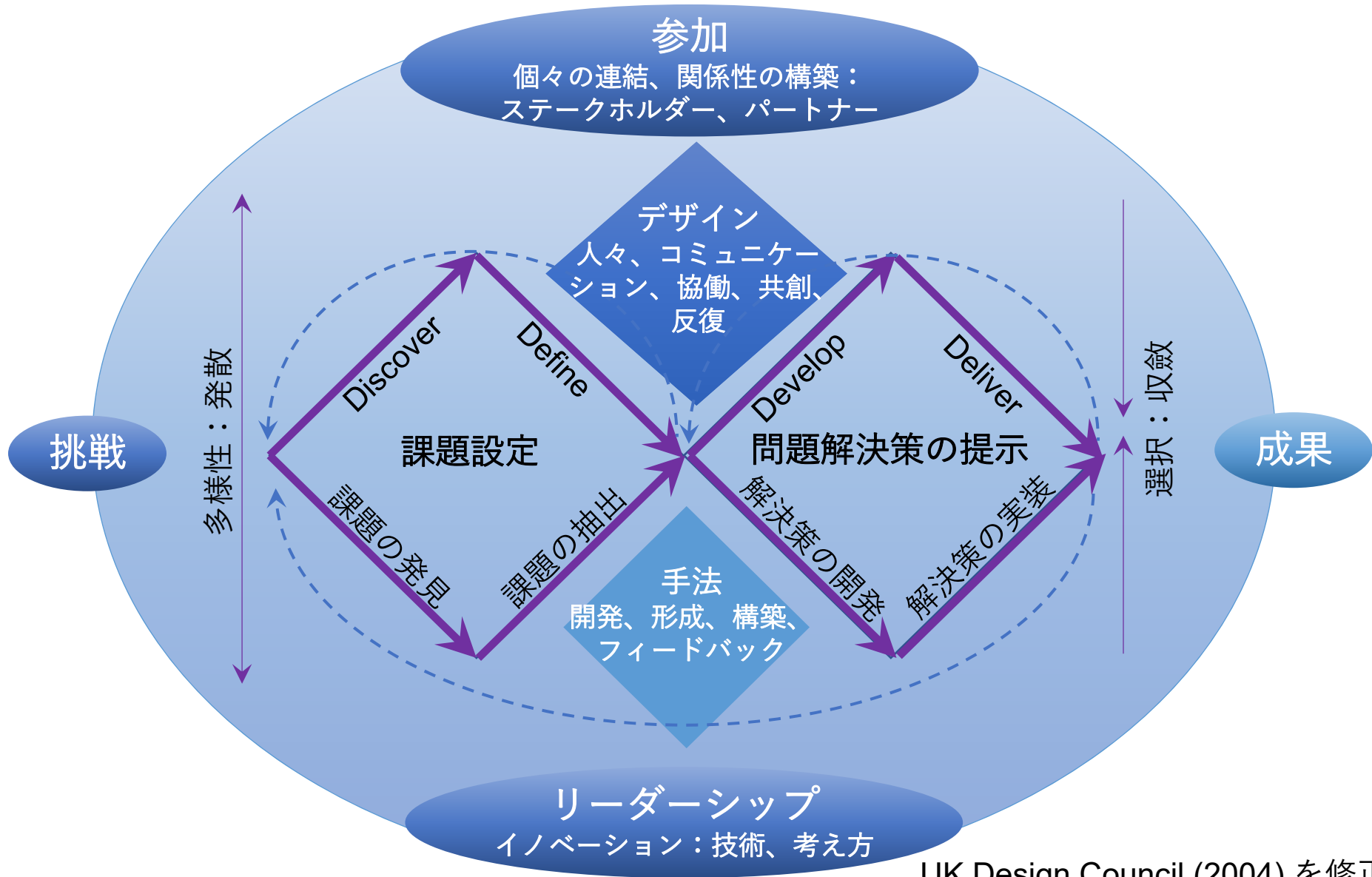
課題設定・問題解決策策定能力の向上

時事課題解決法提案演習I, II

課題解決型学修の集大成

卒業研究

課題解決科目における考え方 ーデザイン思考の考え方ー



UK Design Council (2004) を修正

実習等協力承諾書リスト

- ・ The Japanese Chamber of Trade & Industry, Malaysia (JACTIM; マレーシア日本人商工会議所)
- ・ SHIMADZU MALAYSIA SDN BHD
- ・ 三菱商事クアラルンプール支店
- ・ 日本航空株式会社クアラルンプール支店
- ・ クアラルンプール日本人会
- ・ Japan Graduates' Association of Malaysia (JAGAM; マレーシア元留日学生協会)
- ・ Alumni Look East Policy Society (ALEPS; 東方政策元留学生同窓会)

資料7 実習等協力承諾書

- ・ 実習等協力承諾書（1～8 ページ）

各承諾書に代えて、1 ページ目の一覧のみ掲載。承諾書の主な内容は以下のとおり。

- ・ 授業等における学生実習・視察研修等（インターンシップ）の受け入れ
- ・ 授業の一部において実施される講演会や学生との討論会への講師派遣
- ・ 授業の一環として行われる学生によるアンケート等調査への協力
- ・ 筑波大学マレーシア海外分校に対する助言等の協力

- ・ 企業・団体等との交流経過（2018 年度～2022 年度）（9～18 ページ）

現地の日系企業、団体等のトップマネジメントクラスとの意見交換を定期的を実施してきた交流経過をまとめたもの。個人情報を含むため非公開。

科目区分

基礎科目	共通科目	全学必修：総合科目、体育、外国語、情報
	関連科目	当該専門分野の履修に関連して履修する科目
専門基礎科目	専門分野の履修のための基礎となる当該専門分野についての科目	
専門科目	当該専門分野のうちで、重点的に履修を深める分野についての科目	

別表第1（第4条関係）
（学際サイエンス・デザイン専門学群）

主 専 攻 分 野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																								
	専 門 科 目					専 門 基 礎 科 目					基 礎 科 目										計			合 計	
											共 通 科 目					関 連 科 目									
	必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数	必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数	必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目	単 位 数	必 修 科 目	単 位 数	選 択 科 目	単 位 数	自 由 科 目		単 位 数
学 際	日本文化と社会の理解I	2	-	-	-	統計学基礎	3	-	-	-	-	ファーストイヤーセミナー	1	-	-	-	(マレーシア高等教育省が指定する科目)	(マレーシア高等教育省が指定する科目)	-	-	120	6	-		126
	日本文化と社会の理解II	2				実践統計	3					総合科目 学問への誘い	1				Philosophy and Current Issues	[マレーシア人学生対象] Appreciation of Ethics and Civilisations [外国人学生対象] Malay Language Communication II	2	-	-	-	-	-	
	日本文化コミュニケーションI	3				日本語と学問I	3					社会と職業	1												
	日本文化コミュニケーションII	3				日本語と学問II	3					体育 基礎体育	1												
	自然科学通論I	4				自然科学基礎I	4					応用体育	1												
	自然科学通論II	4				自然科学基礎II	4					外国語 研究日本語基礎I-A-1 研究日本語基礎I-A-2 *1, *2	2	2											
	人文社会科学通論I	4				人文社会科学基礎I	4					研究日本語基礎II-A-1 研究日本語基礎II-A-2 *1, *2	2	2											
	人文社会科学通論II	4				人文社会科学基礎II	4					情報リテラシー(講義)	1												
	時事課題論考演習I	5				データサイエンスのための線形代数	2					情報リテラシー(演習)	1												
	時事課題論考演習II	6				データサイエンスのための解析学	2					データサイエンス	2												
	時事課題解析演習I	6				データサイエンスのためのシステム理論	2																		
	時事課題解析演習II	6																							
	時事課題解決法提案演習I	6																							
	時事課題解決法提案演習II	6																							
	卒業研究	10																							
	単位合計	71	-	-	-	34	-	-	-	-	-	13	4	-	2	2~4	-	120	6	-	126				

*1 プレイメントテストにより履修するクラスを決定する。
 *2 日本語能力試験N2以上の証明書有する場合は、当該科目の履修とみなして単位を認定することができる。
 *3 Sijil Pelajaran Malaysia (SPM)において「Bahasa Melayu」に合格していない場合は、当該科目を履修し単位を修得すること。この場合の卒業要件単位数は128単位となる。

データサイエンススキルセットの段階的獲得

専門コンピテンス1：
データサイエンスを理解し利活用できる能力

データサイエンススキルセット：
 1. 解析のためのデータを整理し、準備できる能力
 2. データ解析手法のメリット・デメリットを理解して、比較・評価できる能力
 3. データの解析結果を視覚化するなどして、わかりやすく伝えるプレゼンテーション能力

4年
 データサイエンススキルセット修得の総仕上げ（卒業論文に対するデータサイエンススキルセットの実践的使用）
 卒業研究

3年
 数学の基礎的理解に基づく統計的データハンドリング
 時事課題解決法提案演習I
 時事課題解決法提案演習II

2年
 統計学に基づくデータハンドリング
 時事課題解析演習I
 時事課題解析演習II

1年
 統計量を意識したデータハンドリング
 時事課題論考演習I
 時事課題論考演習II

PBL

数学学修
レディネ
スの醸成

データサイエンスのための
線形代数・解析学・
システム理論

自然科学基礎I, II

統計学基礎 実践統計
 情報リテラシー（講義・演習），
データサイエンス

専門基礎
 1.3 ICT・AIT
 1.1 数学
 1.2 統計学
 基礎・共通・情報

授業科目・担当教員と科目間連携



2024/2025 学年暦 (予定)

秋学期								春学期										
9	日	月	火	水	木	金	土	備考	1	日	月	火	水	木	金	土	Remarks	
SEPTEMBER	1	2	3	4	5	6	7	新入生登録・入学式・オリエンテーション 2024.9.2 - 9.6	FEBRUARY							1	春季休業 2025.1.25 - 2.16	
	8	9	10	11	12	13	14	秋Aモジュール 2024.9.9 - 10.14		2	3	4	5	6	7	8		
	15	16	17	18	19	20	21			9	10	11	12	13	14	15		
	22	23	24	25	26	27	28			16	17	18	19	20	21	22	春Aモジュール 2025.2.17 - 3.25	
	29	30								23	24	25	26	27	28			
OCTOBER			1	2	3	4	5	備考	MARCH							1	備考	
	6	7	8	9	10	11	12	秋Aモジュール期末試験 2024.10.15		2	3	4	5	6	7	8		
	13	14	15	16	17	18	19	秋Bモジュール 2024.10.16 - 11.21		9	10	11	12	13	14	15		
	20	21	22	23	24	25	26			16	17	18	19	20	21	22		
	27	28	29	30	31					23	24	25	26	27	28	29	春Aモジュール期末試験 2025.3.26	
NOVEMBER						1	2	備考	APRIL								備考	
	3	4	5	6	7	8	9			1	2	3	4	5	春Bモジュール 2025.4.3 - 5.8			
	10	11	12	13	14	15	16			6	7	8	9	10	11	12		
	17	18	19	20	21	22	23	秋AB, 秋Bモジュール期末試験 2024.11.25 - 11.26		13	14	15	16	17	18	19		
	24	25	26	27	28	29	30	秋Cモジュール 2024.11.27 - 2025.1.10		20	21	22	23	24	25	26		
DECEMBER								備考	MAY						1	2	3	備考
	1	2	3	4	5	6	7			4	5	6	7	8	9	10		
	8	9	10	11	12	13	14	推薦入試 (学生立入禁止) 2024.12.12-12.13		11	12	13	14	15	16	17	春AB, 春Bモジュール期末試験 2025.5.13 - 5.14	
	15	16	17	18	19	20	21	年末年始休業 2024.12.28 - 2024.1.5		18	19	20	21	22	23	24	春Cモジュール 2025.5.16 - 6.25	
	22	23	24	25	26	27	28			25	26	27	28	29	30	31		
JANUARY								Remarks	JUNE								備考	
	1	2	3	4						1	2	3	4	5	6	7		
	5	6	7	8	9	10	11			8	9	10	11	12	13	14	適性入試 (学生立入禁止) 2025.6.10 - 6.11	
	12	13	14	15	16	17	18	試験準備期間 2025.1.13 - 2025.1.17		15	16	17	18	19	20	21		
	19	20	21	22	23	24	25	秋ABC, 秋BC, 秋Cモジュール期末試験 2025.1.20 - 1.24		22	23	24	25	26	27	28	試験準備期間 2025.6.26 - 2025.7.2	
26	27	28	29	30	31	春季休業 2025.1.25 - 2.16		29	30									
FEBRUARY								備考	JULY								備考	
										1	2	3	4	5	春ABC, 春BC, 春Cモジュール期末試験 2025.7.3 - 7.9			
										6	7	8	9	10	11	12	夏季休業 2025.7.10 - 8.31	
										13	14	15	16	17	18	19		
										20	21	22	23	24	25	26		
MARCH								備考	AUGUST								備考	
										1	2							
										3	4	5	6	7	8	9		
										10	11	12	13	14	15	16		
										17	18	19	20	21	22	23		
									24	25	26	27	28	29	30			
									31									

大学行事	: 授業無し
日曜日 土曜日 祝日	: 基本的に授業なし、稀に授業がある可能性
A module B module C module	: 授業期間
試験準備期間	: 授業無し
試験期間	: 授業無し
休業	: 基本的に授業無し、集中講義を行う可能性

祝日 (政府の公式発表により変更の可能性有り) ※下線は暦により毎年変動する祝日					
2024	2025	2025	2025	2025	2025
Malaysia Day マレーシア・デー	Mon 16 September 2024	New Year 元旦	Sat 01 February 2025	Labour Day メーデー	Thu 01 May 2025
Maulidur Rasul ムハンマド生誕祭	Mon 16 September 2024	Chinese New Year 春節	Wed 29 January 2025 ~ Thu 30 January 2025	Wesak Day 花祭り (釈迦生誕)	Mon 12 May 2025
Deepavali ディバヴァリ (ヒンドゥー新年)	Thu 31 October 2024	Federal Territory Day 連邦区記念日	Sat 01 February 2025	His Majesty's King's Birthday 国王誕生日	Mon 02 June 2025
Christmas Day クリスマス	Wed 25 December 2024	Thaipusam タイプーサム (ヒンドゥー教の祭)	Tue 11 February 2025	Eidul Adha ハリ・ラヤ・ハジ (犠牲祭)	Fri 06 June 2025
		Nuzul Al-Quran みいつの夜 (ムハンマドがお告げを受けた日)	Tue 11 March 2025	Awal Muharam イスラム暦新年	Fri 27 June 2025
		Eidul Fitri ハリ・ラヤ・プアサ (ラマダン明け)	Mon 31 March 2025 ~ Tue 1 April 2025	National Day 国家記念日	Sun 31 August 2025

卒業時に身につけていることが期待される日本語能力

1. 日本語を理解し、利活用できる能力	
1.1	大学内での日常会話や教務連絡、授業上の留意点等を、英語の注釈や辞書の補助のもとで、概ね理解し、必要な対応をとることができる。
1.2	データサイエンスや専門基礎科目で扱われる専門用語の意味を、簡潔な日本語により口頭で説明することができる。
1.3	学修研究の課題について、担当教員らと日本語と英語を併用し意見交換することができる。
2. 日本語による各種資料を収集し、利活用できる能力	
2.1	日本語の新聞や雑誌を辞書を使って読み、図表等の資料と併せ、大凡の意味を理解することができる。
2.2	日本語による1次資料、2次資料や論文等の図表から、必要な情報の概略を抽出することができる。
2.3	卒業研究テーマに関わる日本語の文献において、重要な部分の記載について、指導教員の補助のもとで概ね理解することができる。
3. 日本文化や伝統、日本の価値観を理解し、母国とは異なる文化、伝統、価値観を尊重する能力	
3.1	日本文化や伝統、価値観を、文献、芸術作品、様々な媒体により理解することで、文化の多様性を理解することができる。
3.2	日本国内において、生活し学修することができる。
3.3	日本文化及び第3国の文化、伝統、価値観を理解し、文化の多様性を日本語、もしくは英語及び母国語により説明することができる。

学修プロセス

- ◆ 1年次～3年次前半までは共通の履修モデルとなり、受講科目はすべて必修（一部選択必修）
- ◆ 3年次後半以降もすべて必修となるが、学生個人の問題意識に応じたテーマ設定のもとにPBLを進める。

	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目 >>	<ul style="list-style-type: none"> ファーストイヤーセミナー (1) 学問への誘い (1) 社会と職業 (1) 情報リテラシー (講義) (1) 情報リテラシー (演習) (1) データサイエンス (2) 研究日本語基礎 I-A-1/2 (2) ※1又は2 研究日本語基礎 I-B (2) 研究日本語基礎 II-A-1/2 (2) ※1又は2 研究日本語基礎 II-B (2) 基礎体育 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> 応用体育 (1) [マレーシア人学生] Philosophy and Current Issues (2) Appreciation of Ethics and Civilization (2) National Language A-I (2) *条件科目 [外国人学生] Philosophy and Current Issues (2) Malay Language Communication II (2) 	<p>*MPU (2科目・4単位、条件により3科目6単位) ※2～4年次の間に選択</p>	
専門基礎科目 >>	<ul style="list-style-type: none"> 統計基礎 (3) 実践統計 (3) 	<ul style="list-style-type: none"> 自然科学基礎 I/II (4x2) 人文社会科学基礎 I/II (4x2) 日本語と学問 I/II (3x2) 	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスのための線形代数 (2) データサイエンスのための解析学 (2) データサイエンスのためのシステム理論 (2) 	
専門科目 >>		<ul style="list-style-type: none"> 日本文化と社会の理解 I/II (2x2) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本文化コミュニケーション I/II (3x2) 自然科学通論 I/II (4x2) 人文社会科学通論 I/II (4x2) 	
PBL >> Semester I (秋学期)	<p>時事課題論考演習 I (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の周りの疑問、困りごとをどのように解決できるか? データを基盤に、課題解決のシステムを構築 文学テキストから読み解く、日本文化・社会への理解 文学テキストから日本文化・社会の特徴、問題を抽出 	<p>時事課題解析演習 I (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 我々が生活している環境の把握と相互関係 自身の位置、場所と行為、経験に関する議論、プレゼンテーション、フィールドワークと地図化 現代のポップカルチャー経験をテーマにした Fanzine (同人誌) の編集 チームとしての取材、資料収集、原稿執筆 	<p>時事課題解決法提案演習 I (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsと身の周りの課題に関し、課題を設定し、問題を理解し、課題を解決するためのシステムを提案、どのように評価するかまでを、一連のストーリーとして構築する 一連のチーム活動を、映像としてドキュメンタリーにまとめ、発表する 	卒業研究 (10)
PBL >> Semester II (春学期)	<p>時事課題論考演習 II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健幸で持続可能なライフスタイルのデザイン 生活リズムの記録、自分に合ったライフスタイルプランの作成 教育の面からみた社会課題 「民主主義」に関わる教育経験の比較 いつ、なにを、どのように学んだか 	<p>時事課題解析演習 II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域による医療ニーズの違いの実態と課題 世界の医療に関する課題の解決策の策定 多言語、多文化社会における教育 複言語・複文化主義にたった思考に基づく、プロジェクションのサイズに応じた教育の実装デザイン提案 	<p>時事課題解決法提案演習 II (6)</p>	<p>学生個人の問題意識に応じたテーマ設定</p>

9月
入学

1年次

2年次

3年次

4年次

8月
卒業

基礎科目 >>	<ul style="list-style-type: none"> ファーストイヤーセミナー (1) 学問への誘い (1) 社会と職業 (1) 情報リテラシー (講義) (1) 情報リテラシー (演習) (1) データサイエンス (2) 研究日本語基礎 I-A-1/2 (2) ※1又は2 研究日本語基礎 I-B (2) 研究日本語基礎 II-A-1/2 (2) ※1又は2 研究日本語基礎 II-B (2) 基礎体育 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> 応用体育 (1) <p>[マレーシア人学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> Philosophy and Current Issues (2) Appreciation of Ethics and Civilization (2) National Language A-I (2) *条件科目 <p>[外国人学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> Philosophy and Current Issues (2) Malay Language Communication II (2) 		
専門基礎科目 >>	<ul style="list-style-type: none"> 統計基礎 (3) 実践統計 (3) 	<ul style="list-style-type: none"> 自然科学基礎 I/II (4x2) 人文社会科学基礎 I/II (4x2) 日本語と学問 I/II (3x2) 	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスのための線形代数 (2) データサイエンスのための解析学 (2) データサイエンスのためのシステム理論 (2) 	
専門科目 >>		<ul style="list-style-type: none"> 日本文化と社会の理解 I/II (2x2) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本文化コミュニケーション I/II (3x2) 自然科学通論 I/II (4x2) 人文社会科学通論 I/II (4x2) 	
PBL >> Semester I (秋学期)	<p>時事課題論考演習 I (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の周りの疑問、困りごとをどのように解決できるか? データを基盤に、課題解決のシステムを構築 文学テキストから読み解く、日本文化・社会への理解 文学テキストから日本文化・社会の特徴、問題を抽出 	<p>時事課題解析演習 I (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 我々が生活している環境の把握と相互関係 自身の位置、場所と行為、経験に関する議論、プレゼンテーション、フィールドワークと地図化 現代のポップカルチャー経験をテーマにしたFanzine (同人誌)の編集 チームとしての取材、資料収集、原稿執筆 	<p>時事課題解決法提案演習 I (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsと身の周りの課題に関し、課題を設定し、問題を理解し、課題を解決するためのシステムを提案、どのように評価するかまでを、一連のストーリーとして構築する 一連のチーム活動を、映像としてドキュメンタリーにまとめ、発表する 	<p>卒業研究 (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究では日本企業の商品をマレーシア向けに現地化するプロセスを理論化する。 ジェンダー、エスニシティ、宗教、気候などの条件が異なる中でどのようなプロセスでローカライゼーションをすることができるか、日系や欧米系の企業の過去の事例を分析する。 さらに、データサイエンスの知見を導入し、例えばヒジャブ・コスプレを楽しむ若いイスラム教徒の女性の例のような、過去の日系や欧米系企業のローカライゼーションでは取りこぼされていた顧客層や消費者層を発見する。
PBL >> Semester II (春学期)	<p>時事課題論考演習 II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康で持続可能なライフスタイルのデザイン 生活リズムの記録、自分に合ったライフスタイルプランの作成 教育の面からみた社会課題 「民主主義」に関わる教育経験の比較 いつ、なにを、どのように学んだか 	<p>時事課題解析演習 II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域による医療ニーズの違いの実態と課題 世界の医療に関する課題の解決策の策定 多言語、多文化社会における教育 複言語・複文化主義にたった思考に基づく、プロジェクションのサイズに応じた教育の実装デザイン提案 	<p>時事課題解決法提案演習 II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究につなげることを念頭に、企業が開発した商品のローカライゼーション (現地化) や、多文化社会に向けて商品開発をする際のデータ・サイエンスの利用方法などについて、自ら解析を行い学習する。 発表、討論、修正を1サイクル行い、最終発表に至る 	

*MPU (2科目・4単位、条件により3科目6単位) ※2~4年次の間に選択

卒業後の進路イメージ 「マレーシアの日系企業に就職し、データサイエンスの知見を応用したマーケティングと商品開発の専門家として活躍する。」

卒研テーマ：
『現代日本における女性表象とジェンダー観に関する卒業研究』

9月
入学

1年次

2年次

3年次

4年次

8月
卒業

基礎科目 >>	<ul style="list-style-type: none"> ファーストイヤーセミナー (1) 学問への誘い (1) 社会と職業 (1) 情報リテラシー (講義) (1) 情報リテラシー (演習) (1) データサイエンス (2) 研究日本語基礎 I-A-1/2 (2) ※1又は2 研究日本語基礎 I-B (2) 研究日本語基礎 II-A-1/2 (2) ※1又は2 研究日本語基礎 II-B (2) 基礎体育 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> 応用体育 (1) <p>[マレーシア人学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> Philosophy and Current Issues (2) Appreciation of Ethics and Civilization (2) National Language A-I (2) *条件科目 <p>[外国人学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> Philosophy and Current Issues (2) Malay Language Communication II (2) 		
専門基礎科目 >>	<ul style="list-style-type: none"> 統計基礎 (3) 実践統計 (3) 	<ul style="list-style-type: none"> 自然科学基礎 I/II (4x2) 人文社会科学基礎 I/II (4x2) 日本語と学問 I/II (3x2) 	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスのための線形代数 (2) データサイエンスのための解析学 (2) データサイエンスのためのシステム理論 (2) 	
専門科目 >>		<ul style="list-style-type: none"> 日本文化と社会の理解 I/II (2x2) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本文化コミュニケーション I/II (3x2) 自然科学通論 I/II (4x2) 人文社会科学通論 I/II (4x2) 	
PBL >> Semester I (秋学期)	<p>時事課題論考演習 I (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の周りの疑問、困りごとをどのように解決できるか? データを基盤に、課題解決のシステムを構築 文学テキストから読み解く、日本文化・社会への理解 文学テキストから日本文化・社会の特徴、問題を抽出 	<p>時事課題解析演習 I (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 我々が生活している環境の把握と相互関係 自身の位置、場所と行為、経験に関する議論、プレゼンテーション、フィールドワークと地図化 現代のポップカルチャー経験をテーマにしたFanzine (同人誌)の編集 チームとしての取材、資料収集、原稿執筆 	<p>時事課題解決法提案演習 I (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsと身の周りの課題に関し、課題を設定し、問題を理解し、課題を解決するためのシステムを提案、どのように評価するかまでを、一連のストーリーとして構築する 一連のチーム活動を、映像としてドキュメンタリーにまとめ、発表する 	<p>卒業研究 (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ジェンダー研究のために必要な資料の整理・分類・読み込み 日本の歴史・社会におけるジェンダー表象に関わる資料の整理・分類・読み込み 日本社会の価値観が反映された文学・文化テキストの読解 必要に応じたマレーシアとの比較の視点の加味 文献の分析・考察を通して、現代日本における女性表象とジェンダー観に関する卒業論文のドラフトを作成する 発表、討論、修正を1サイクル行い、最終原稿を完成させる 卒業論文発表会
PBL >> Semester II (春学期)	<p>時事課題論考演習 II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健全で持続可能なライフスタイルのデザイン 生活リズムの記録、自分に合ったライフスタイルプランの作成 教育の面からみた社会課題 「民主主義」に関わる教育経験の比較 いつ、なにを、どのように学んだか 	<p>時事課題解析演習 II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域による医療ニーズの違いの実態と課題 世界の医療に関する課題の解決策の策定 多言語、多文化社会における教育 複言語・複文化主義にたった思考に基づく、プロジェクションのサイズに応じた教育の実装デザイン提案 	<p>時事課題解決法提案演習 II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究につなげることを念頭に、資料やテキストを渉猟する SDGsのひとつである「ジェンダー平等」についての理解を深める 自身で課題の設定、既存知見のレビュー、アプローチの組み立て、文献研究を主とした工程の構築を行い、期待される効果を予測する 発表、討論、修正を1サイクル行い、最終発表に至る 	

*MPU (2科目・4単位、条件により3科目6単位) ※2~4年次の間に選択

卒業後の進路イメージ「日本国内の日系企業に就職」
国内の日系企業に就職
日本国内の人文社会系、国際関係関連の大学院進学、あるいはマレーシア

卒研テーマ:

『クラン川の汚染と浄化プロジェクトについての研究とその市民向けヴィジュアルイゼーション』

9月
入学

1年次

2年次

3年次

4年次

8月
卒業

基礎科目 >>	<ul style="list-style-type: none"> ファーストイヤーセミナー (1) 学問への誘い (1) 社会と職業 (1) 情報リテラシー (講義) (1) 情報リテラシー (演習) (1) データサイエンス (2) 研究日本語基礎 I-A-1/2 (2) ※1又は2 研究日本語基礎 I-B (2) 研究日本語基礎 II-A-1/2 (2) ※1又は2 研究日本語基礎 II-B (2) 基礎体育 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> 応用体育 (1) <p>[マレーシア人学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> Philosophy and Current Issues (2) Appreciation of Ethics and Civilization (2) National Language A-I (2) *条件科目 <p>[外国人学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> Philosophy and Current Issues (2) Malay Language Communication II (2) 	<p>*MPU (2科目・4単位、条件により3科目6単位) ※2~4年次の間に選択</p>	
専門基礎科目 >>	<ul style="list-style-type: none"> 統計基礎 (3) 実践統計 (3) 	<ul style="list-style-type: none"> 自然科学基礎 I/II (4x2) 人文社会科学基礎 I/II (4x2) 日本語と学問 I/II (3x2) 	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスのための線形代数 (2) データサイエンスのための解析学 (2) データサイエンスのためのシステム理論 (2) 	
専門科目 >>		<ul style="list-style-type: none"> 日本文化と社会の理解 I/II (2x2) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本文化コミュニケーション I/II (3x2) 自然科学通論 I/II (4x2) 人文社会科学通論 I/II (4x2) 	
PBL >> Semester I (秋学期)	<p>時事課題論考演習I (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の周りの疑問、困りごとをどのように解決できるか? データを基盤に、課題解決のシステムを構築 文学テキストから読み解く、日本文化・社会への理解 文学テキストから日本文化・社会の特徴、問題を抽出 	<p>時事課題解析演習I (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 我々が生活している環境の把握と相互関係 自身の位置、場所と行為、経験に関する議論、プレゼンテーション、フィールドワークと地図化 現代のポップカルチャー経験をテーマにしたFanzine (同人誌) の編集 チームとしての取材、資料収集、原稿執筆 	<p>時事課題解決法提案演習I (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsと身の周りの課題に関し、課題を設定し、問題を理解し、課題を解決するためのシステムを提案、どのように評価するかまでを、一連のストーリーとして構築する 一連のチーム活動を、映像としてドキュメンタリーにまとめ、発表する 	<p>卒業研究 (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究では環境学、利水・治水学の観点からクラン川の汚染の歴史的原因や浄化のために有効な科学的な手段などを研究する。 同時に、データサイエンスの知見やFanzineやドキュメンタリー制作の経験を活かし、科学的知見を市民に伝える表現 (visualize) 手法についても模索する。
PBL >> Semester II (春学期)	<p>時事課題論考演習II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康で持続可能なライフスタイルのデザイン 生活リズムの記録、自分に合ったライフスタイルプランの作成 教育の面からみた社会課題 「民主主義」に関わる教育経験の比較 いつ、なにを、どのように学んだか 	<p>時事課題解析演習II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域による医療ニーズの違いの実態と課題 世界の医療に関する課題の解決策の策定 多言語、多文化社会における教育 複言語・複文化主義にたった思考に基づく、プロジェクトのサイズに応じた教育の実装デザイン提案 	<p>時事課題解決法提案演習II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究につなげることを念頭に、クラン川の歴史、同河川の汚染の原因、浄化プロジェクトの展開などについて調査する。 発表、討論、修正を1サイクル行い、最終発表に至る 	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすく表現するというだけでなく、動画・図表・紙媒体などを使い分けて適切なデータを広く公開し、クラン川流域の住民たちが、将来にわたってクラン川をどのようにしたいのか自分たちで考え議論できる材料を提供できるようなサイエンス・コミュニケーションのあり方を目指す。

卒業後の進路イメージ「地方自治体に就職しデータ・ヴィジュアルイゼーションの専門家として活躍する」
て地域住民とコミュニケーションができる環境問題の専門家として活躍する」

卒研テーマ： 『ボルネオ島の観光開発とその環境へのインパクト:オランウータン保護区を中心に』

9月
入学

1年次

2年次

3年次

4年次

8月
卒業

基礎科目 >>	<ul style="list-style-type: none"> ファーストイヤーセミナー (1) 学問への誘い (1) 社会と職業 (1) 情報リテラシー (講義) (1) 情報リテラシー (演習) (1) データサイエンス (2) 研究日本語基礎 I-A-1/2 (2) ※1又は2 研究日本語基礎 I-B (2) 研究日本語基礎 II-A-1/2 (2) ※1又は2 研究日本語基礎 II-B (2) 基礎体育 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> 応用体育 (1) <p>[マレーシア人学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> Philosophy and Current Issues (2) Appreciation of Ethics and Civilization (2) National Language A-I (2) *条件科目 <p>[外国人学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> Philosophy and Current Issues (2) Malay Language Communication II (2) 	<p>*MPU (2科目・4単位、条件により3科目6単位) ※2~4年次の間に選択</p>	
専門基礎科目 >>	<ul style="list-style-type: none"> 統計基礎 (3) 実践統計 (3) 	<ul style="list-style-type: none"> 自然科学基礎 I/II (4x2) 人文社会科学基礎 I/II (4x2) 日本語と学問 I/II (3x2) 	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスのための線形代数 (2) データサイエンスのための解析学 (2) データサイエンスのためのシステム理論 (2) 	
専門科目 >>		<ul style="list-style-type: none"> 日本文化と社会の理解 I/II (2x2) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本文化コミュニケーション I/II (3x2) 自然科学通論 I/II (4x2) 人文社会科学通論 I/II (4x2) 	
PBL >> Semester I (秋学期)	<p>時事課題論考演習 I (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の周りの疑問、困りごとをどのように解決できるか? データを基盤に、課題解決のシステムを構築 文学テキストから読み解く、日本文化・社会への理解 文学テキストから日本文化・社会の特徴、問題を抽出 	<p>時事課題解析演習 I (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 我々が生活している環境の把握と相互関係 自身の位置、場所と行為、経験に関する議論、プレゼンテーション、フィールドワークと地図化 現代のポップカルチャー経験をテーマにしたFanzine (同人誌)の編集 チームとしての取材、資料収集、原稿執筆 	<p>時事課題解決法提案演習 I (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsと身の周りの課題に関し、課題を設定し、問題を理解し、課題を解決するためのシステムを提案、どのように評価するかまでを、一連のストーリーとして構築する 一連のチーム活動を、映像としてドキュメンタリーにまとめ、発表する 	<p>卒業研究 (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究では環境学の観点から、ボルネオ島の観光開発が地域住民に与える正負の影響を分析する。 資料調査等に加えて、オランウータン保護区に関連する地域のフィールドワークをすることで、環境保護と地域の経済的発展の間の複雑な関係を明らかにすることを旨とする。 フィールドワークに際してはFanzineやドキュメンタリー映像の制作で培った経験を生かす。
PBL >> Semester II (春学期)	<p>時事課題論考演習 II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康で持続可能なライフスタイルのデザイン 生活リズムの記録、自分に合ったライフスタイルプランの作成 教育の面からみた社会課題 「民主主義」に関わる教育経験の比較 いつ、なにを、どのように学んだか 	<p>時事課題解析演習 II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域による医療ニーズの違いの実態と課題 世界の医療に関する課題の解決策の策定 多言語、多文化社会における教育 複言語・複文化主義にたった思考に基づく、プロジェクトのサイズに応じた教育の実装デザイン提案 	<p>時事課題解決法提案演習 II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究につなげることを念頭に、ボルネオ島におけるオランウータン保護活動の歴史や、ボルネオ島の観光開発の地域住民や地域社会への正負の影響について調査する。 発表、討論、修正を1サイクル行い、最終発表に至る 	

卒業後の進路イメージ 「新聞やテレビなどのメディア企業に就職し、環境問題を国内の不均衡な発展などと関連づけて多面的に報道できるリサーチ・ジャーナリストとして活躍する。」

卒研テーマ：『Make: Data-driven Intelligent Interaction Technologies』

9月
入学

1年次

2年次

3年次

4年次

8月
卒業

基礎科目 >>	<ul style="list-style-type: none"> ファーストイヤーセミナー (1) 学問への誘い (1) 社会と職業 (1) 情報リテラシー (講義) (1) 情報リテラシー (演習) (1) データサイエンス (2) 研究日本語基礎 I-A-1/2 (2) ※1又は2 研究日本語基礎 I-B (2) 研究日本語基礎 II-A-1/2 (2) ※1又は2 研究日本語基礎 II-B (2) 基礎体育 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> 応用体育 (1) <p>[マレーシア人学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> Philosophy and Current Issues (2) Appreciation of Ethics and Civilization (2) National Language A-I (2) *条件科目 <p>[外国人学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> Philosophy and Current Issues (2) Malay Language Communication II (2) 	<p>*MPU (2科目・4単位、条件により3科目6単位) ※2~4年次の間に選択</p>	
専門基礎科目 >>	<ul style="list-style-type: none"> 統計基礎 (3) 実践統計 (3) 	<ul style="list-style-type: none"> 自然科学基礎 I/II (4x2) 人文社会科学基礎 I/II (4x2) 日本語と学問 I/II (3x2) 	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスのための線形代数 (2) データサイエンスのための解析学 (2) データサイエンスのためのシステム理論 (2) 	<p>※補足：1年次PBLから3年次PBLを経て、卒業研究に至る3つの【Make: ~】により、データを賢く活用したシステムを“つくる”センスを身につける。</p>
専門科目 >>		<ul style="list-style-type: none"> 日本文化と社会の理解 I/II (2x2) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本文化コミュニケーション I/II (3x2) 自然科学通論 I/II (4x2) 人文社会科学通論 I/II (4x2) 	
PBL >> Semester I (秋学期)	<p>時事課題論考演習I (5)</p> <p>【Make: Data-based Intelligent Systems】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の周りの疑問、困りごとをどのように解決できるか？ データを基盤に、課題解決のシステムを構築 文学テキストから読み解く、日本文化・社会への理解 文学テキストから日本文化・社会の特徴、問題を抽出 	<p>時事課題解析演習I (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 我々が生活している環境の把握と相互関係 自身の位置、場所と行為、経験に関する議論、プレゼンテーション、フィールドワークと地図化 現代のポップカルチャー経験をテーマにしたFanzine (同人誌) の編集 チームとしての取材、資料収集、原稿執筆 	<p>時事課題解決法提案演習I (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsと身の周りの課題に関し、課題を設定し、問題を理解し、課題を解決するためのシステムを提案、どのように評価するかまでを、一連のストーリーとして構築する 一連のチーム活動を、映像としてドキュメンタリーにまとめ、発表する 	<p>卒業研究 (10)</p> <p>【Make: Data-driven Intelligent Interaction Technologies】</p> <ul style="list-style-type: none"> データの活用によって、サイバー空間とフィジカル空間の間の“知的な”相互作用を生み出すシステムを構想し、デザインする。 フィジカル空間の情報をサイバー空間に効果的に取り込むためのセンサとその情報処理技術の開発。 サイバー空間で処理された情報を、フィジカル空間に効果的に作用させるアクチュエータとその制御技術の開発。 獲得したセンサデータに基づきアクチュエータを機能的に作用させる、データ駆動型の知的なアルゴリズムの開発。 開発した知的なシステムの社会実装のデザインと検証。
PBL >> Semester II (春学期)	<p>時事課題論考演習II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康で持続可能なライフスタイルのデザイン 生活リズムの記録、自分に合ったライフスタイルプランの作成 教育の面からみた社会課題 「民主主義」に関わる教育経験の比較 いつ、なにを、どのように学んだか 	<p>時事課題解析演習II (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域による医療ニーズの違いの実態と課題 世界の医療に関する課題の解決策の策定 多言語、多文化社会における教育 複言語・複文化主義にたった思考に基づく、プロジェクションのサイズに応じた教育の実装デザイン提案 	<p>時事課題解決法提案演習II (6)</p> <p>【Make: Cyber-Physical Interaction】</p> <ul style="list-style-type: none"> サイバー空間とフィジカル空間の間の相互作用を生むインタフェースを構想し、デザインする。 サイバー・フィジカル空間の相互作用のためのセンサとアクチュエータを自作する。 センサデータに基づきアクチュエータを機能的に作用させるアルゴリズムを加えた、相互作用のシステムを検証する。 	

卒業後の進路イメージ

工学系大学院進学、IT関連企業、ものづくり企業、テクノロジー系ベンチャー

SYARAT KELAYAKAN MASUK UMUM KE PROGRAM PENDIDIKAN TINGGI	
KELAYAKAN	SYARAT KELAYAKAN MASUK
Sijil (Tahap 3 MQF)	i. Memiliki SPM atau yang setaraf dengan minimum 1 Kepujian dalam mana-mana mata pelajaran; atau ii. *Lulus SKM Tahap 2 (Tahap 2 MQF) (PPT dikehendaki untuk melaksanakan saringan dan bimbingan yang bersesuaian dengan bidang program) *Perlu dibaca bersekali: <ul style="list-style-type: none"> • Pekeliling MQA Bil. 9/2019 bertarikh 30 Ogos 2019-Pelaksanaan Sistem Jaminan Kualiti Tunggal TVET: Penambahbaikan Laluan Pendidikan Graduan TVET
Diploma (Tahap 4 MQF)	i. Memiliki SPM atau yang setaraf dengan minimum 3 Kepujian; atau ii. *Lulus SKM Tahap 3 (Tahap 3 MQF) (PPT dikehendaki untuk melaksanakan saringan dan program pengukuhan yang bersesuaian dengan bidang program); atau iii. Lulus Sijil (Tahap 3 MQF) atau yang setaraf dalam bidang yang berkaitan dengan minimum PNGK 2.00; atau iv. Lulus STPM atau yang setaraf dengan minimum Gred C (NGMP 2.00) dalam mana-mana mata pelajaran; atau v. Lulus STAM dengan minimum pangkat Maqbul. *Perlu dibaca bersekali: <ul style="list-style-type: none"> • Pekeliling MQA Bil. 9/2019 bertarikh 30 Ogos 2019-Pelaksanaan Sistem Jaminan Kualiti Tunggal TVET: Penambahbaikan Laluan Pendidikan Graduan TVET • Surat JPT-Kemasukan Pelajar Lulusan SKM (Tahap 3 MQF) ke Diploma (Tahap 4 MQF) atau yang Setara Dengannya di IPTS. [No. Ruj: JPT/GS 1000-606 Jld. 2 (37) bertarikh 8 Januari 2021]

Syarat kelayakan masuk umum: kemaskini pada 26.10.2021 1

Diploma Lanjutan (Tahap 5 MQF)	Lulus Diploma (Tahap 4 MQF) atau yang setaraf dalam bidang yang berkaitan dengan minimum PNGK 2.00.
Sijil Siswazah (Tahap 6 MQF)	<ul style="list-style-type: none"> i. Lulus STPM atau yang setaraf dengan minimum Gred C (NGMP 2.00) dalam 2 mata pelajaran; atau ii. Lulus Diploma (Tahap 4 MQF) atau yang setaraf dengan minimum PNGK 2.00. <p>DAN</p> <p>Mempunyai 2 tahun pengalaman kerja.</p>
Diploma Siswazah (Tahap 6 MQF)	<ul style="list-style-type: none"> i. Lulus STPM atau yang setaraf dengan minimum Gred C (NGMP 2.00) dalam 2 mata pelajaran; atau ii. Lulus Diploma (Tahap 4 MQF) atau yang setaraf dengan minimum PNGK 2.00. <p>DAN</p> <p>Mempunyai 2 tahun pengalaman kerja atau memiliki Sijil Siswazah (Tahap 6 MQF) atau yang setaraf dalam bidang yang berkaitan.</p>
Sarjana Muda (Tahap 6 MQF)	<ul style="list-style-type: none"> i. Lulus STPM atau yang setaraf dengan minimum Gred C (NGMP 2.00) dalam 2 mata pelajaran; atau ii. Lulus STAM dengan minimum pangkat Jyyid; atau iii. Lulus <i>Foundation</i>/ Matrikulasi/ Asasi atau yang setaraf dengan mendapat minimum PNGK 2.00; atau iv. Lulus Diploma (Tahap 4 MQF) / Diploma Lanjutan (Tahap 5 MQF) atau yang setaraf dengan minimum PNGK 2.00; atau v. *Lulus DKM/DLKM/DVM (PPT dikehendaki untuk melaksanakan saringan dan program pengukuhan yang bersesuaian dengan bidang program)

	<p>*Perlu dibaca bersekali:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Pekeliling MQA Bil. 9/2019 bertarikh 30 Ogos 2019-Pelaksanaan Sistem Jaminan Kualiti Tunggal TVET: Penambahbaikan Laluan Pendidikan Graduan TVET • IPTS: Surat JPT-Kemasukan Pelajar Lulusan DKM, DLKM, DVM ke Peringkat Sarjana Muda (Tahap 6 MQF) atau yang Setara Dengannya di IPTS. [No. Ruj: JPT/GS 1000-606 Jld. 2 (23) bertarikh 21 April 2020] • UA: Surat JPT–Pindaan Syarat Kelayakan Minimum (Syarat Am) Diploma TVET (DKM, DLKM, DVM) Sebagai Syarat Kelayakan Masuk ke Program Ijazah Sarjana Muda di Universiti Awam (UA) [No. Ruj.: JPT.S(BPKP)2000/400/04/01 Jld. 5 (53) bertarikh 20 November 2019]
<p>Catatan:</p> <ol style="list-style-type: none"> a. Senarai syarat kelayakan masuk umum di atas merupakan penetapan generik bagi tahap kelayakan Kerangka Kelayakan Malaysia (Malaysian Qualifications Framework, MQF). b. Penetapan kelayakan masuk sesuatu program oleh Pemberi Pendidikan Tinggi adalah tertakluk kepada Standard, Standard Program, ketetapan Badan Profesional, ketetapan pihak berkuasa dan pindaan yang dibuat dari semasa ke semasa. c. Memiliki SPM bermaksud lulus Bahasa Melayu dan lulus Sejarah (bermula SPM Tahun 2013). 	



Agensi Kelayakan Malaysia
 Malaysian Qualifications Agency

高等教育プログラムの入学に関する要件	
資格	資格要件
サーティフィケート (MQF ¹ レベル 3)	以下の i. または ii. のいずれかに該当すること。 i. SPM ² またはそれと同等の資格で、1 科目以上で「優」を含む成績で合格していること。 ii. *SKM ³ レベル 2 (MQF レベル 2) に合格 (プログラム領域に適した審査・指導を実施するために PPT ⁴ が必要) していること。 *以下の資料も合わせて読むこと: ● MQA Circular No.9/2019 (2019 年 8 月 30 日) 「TVET ⁵ の単一質保証制度の実施: TVET から大学院教育への接続の改善について」
ディプロマ (MQF レベル 4)	以下の i. ~v. のいずれかに該当すること。 i. SPM またはそれと同等の資格で、3 科目以上で「優」を含む成績で合格していること。 ii. *SKM レベル 3 (MQF レベル 3) に合格 (プログラム領域に適した審査と強化プログラムを実施するために PPT が必要) していること。 iii. 関連分野のサーティフィケート (MQF レベル 3) または同等の資格で、CGPA2.00 以上の成績で合格していること。 iv. STPM ⁶ またはそれに相当する学力認定試験で、各科目最低 C (GPA2.00) 以上の成績で合格していること。 v. STAM ⁷ で最低 Maqbul ⁸ 以上の成績で合格していること。 *以下の資料も合わせて読むこと: ● MQA Circular No.9/2019 (2019 年 8 月 30 日) 「TVET の単一質保証制度の実施: TVET から大学院教育への接続の改善について」 ● JPT/GS 1000-606 Vol.2(37) (2021 年 1 月 8 日) 「私立高等教育機関における SKM 卒業生 (MQF レベル 3) のディプロマ (MQF レベル 4) またはそれに相当する資格について」
アドバンスド・ディプロマ (MQF レベル 5)	関連分野のディプロマ (MQF Level 4) または同等の資格で、CGPA2.00 以上の成績で合格していること。

2021 年 10 月 26 日更新

<p>グラジュエート・サーティフィケート (MQF レベル 6)</p>	<p>以下の i.又は ii.に該当し、かつ2年以上の実務経験があること。</p> <p>i. STPM またはそれに相当する学力認定試験で、2科目を最低 C (GPA2.00) 以上の成績で合格していること。</p> <p>ii. ディプロマ (MQF レベル 4) または同等の資格で、CGPA2.00 以上の成績で合格していること。</p>
<p>グラジュエート・ディプロマ (MQF レベル 6)</p>	<p>以下の i.又は ii.に該当し、かつ2年以上の実務経験があること、又は関連分野のグラジュエート・サーティフィケート (MQF レベル 6) 又は同等の資格を有していること。</p> <p>i. STPM またはそれに相当する学力認定試験で、2科目を最低 C (GPA2.00) 以上の成績で合格していること。</p> <p>ii. ディプロマ (MQF レベル 4) または同等の資格で、CGPA2.00 以上の成績で合格していること。</p>
<p>学士 (MQF レベル 6)</p>	<p>以下の i.~v.のいずれかに該当すること。</p> <p>i. STPM またはそれに相当する学力認定試験で、2科目を最低 C (GPA2.00) 以上の成績で合格していること。</p> <p>ii. STAM で最低 Jayyid⁹以上の成績で合格していること。</p> <p>iii. Foundation / Matriculation / Asasi¹⁰ または同等の資格で、CGPA 2.00 以上の成績で合格していること。</p> <p>iv. ディプロマ (MQF レベル 4) /アドバンスド・ディプロマ (MQF レベル 5) または同等の資格で、CGPA2.00 以上の成績で合格していること。</p> <p>v. *DKM/DLKM/DVM¹¹に合格 (プログラム領域に適した審査と強化プログラムを実施するために PPT が必要) していること。</p> <p>*以下の資料も合わせて読むこと:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● MQA Circular No.9/2019 (2019年8月30日) 「TVET の単一質保証制度の実施: TVETから大学院教育への接続の改善について」 ● JPT/GS 1000-606 Vol. 2 (23) (2020年4月21日) 「DKM,DLKM,DVM卒業生の私立高等教育機関における学士(MQF Level 6)またはそれに相当するレベルへの入学について」 ● JPT.S (BPKP)2000/400/04/01 Vol. 5 (53) (2019年11月20日) 「国公立大学の学士課程入学に関する要件としてのTVETディプロマの改正について」
<p>注意事項:</p> <p>a. 上記の入学に関する要件のリストは、マレーシア資格枠組 (MQF) の各レベルに対する一般的な設定である。</p> <p>b. 高等教育機関によるプログラムへの入学要件の判断は、基準、プログラム基準、専門機関の裁定、当局の裁定、および随時行われる修正に従うものとする。</p> <p>c. SPM を取得していることは、マレー語および歴史に合格していることを意味する (2013年 SPM より)。</p>	

2021年10月26日更新

-
- ¹ MQF : Malaysia Qualification Framework (マレーシア資格枠組) の略。マレーシアにおける National Qualification Framework。
- ² SPM : Sijil Pelajaran Malaysia (マレーシア中等教育修了資格試験) の略。11年課程の後期中等教育修了時に受ける統一試験。
- ³ SKM : Sijil Kemahiran Malaysia (マレーシア技能証明) の略。特定の能力を身につけた個人に対し、マレーシア政府が発行する証明書。
- ⁴ PPT : Pengiktirafan Pencapaian Terdahulu の略。過去の経験と成果が国家職業技能基準に示された技能を満たしている個人を認定する制度。
- ⁵ TVET : Technical and Vocational Education and Training の略。技術職業訓練。
- ⁶ STPM : Sijil Tinggi Persekolahan Malaysia (マレーシア高等教育資格証明書) の略。大学予備教育課程の1つである約1年半の Form 6 の統一試験。
- ⁷ STAM : Sijil Tinggi Agama Malaysia (マレーシア上級宗教教育修了資格試験) の略。成績は5段階により評価される。
- ⁸ Maqbul : STAM における下から2番目の成績で、「PASS」を意味する。
- ⁹ Jaybird : STAM における中間の成績で、「Good」を意味する。
- ¹⁰ Foundation / Matriculation / Asasi : いずれも大学予備教育課程であるが、Matriculation はマレーシア教育省が管轄する Matriculation College において、Foundation 及び Asasi は各大学等において運営されている。
- ¹¹ DKM/DLKM/DVM : Diploma Kemahiran Malaysia (マレーシア技能ディプロマ)、Diploma Lanjutan Kemahiran Malaysia (マレーシア上級技能ディプロマ)、Diploma Vokasional Malaysia (マレーシア職業訓練ディプロマ)。いずれも TVET の1つ。

○国立大学法人筑波大学本部等職員就業規則（抜粋）

第10章 定年、退職及び解雇

第1節 定年

（定年）

第68条 職員が、定年に達したときは、定年に達した日以後における最初の3月31日に退職する。ただし、第5条の規定により期間を定めて採用された職員（第5条の2の規定により無機労働契約に転換になった職員を除く。）を除く。

2 前項の定年は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 大学教員及び研究職員 満65歳
- (2) 労務職員（炊婦） 満63歳
- (3) 前2号以外の職員 満60歳

3 前2項の規定にかかわらず、任命権者が特に必要と認める場合には、別に定年を定めることができる。

（定年延長）

第69条 法人は、定年に達した職員が前条第1項の規定により退職すべきこととなる場合において、当該職員の職務の特殊性若しくは職務の遂行上の特別の事情からみて当該退職により業務の運営に著しい支障が生ずると認めるに十分な理由があるとき又は当該大学教員が教育研究上極めて顕著な業績を有すると認めるときは、同項の規定にかかわらず、1年を超えない期間で定年退職日を定め、その勤務を延長することができる。

2 前項の規定による勤務の延長は、同項の規定にかかわらず、最初の更新の日から3年を超えない期間で更新することができる。

（定年によらない職員の雇用の上限年齢）

第69条の2 第68条第1項ただし書きの職員の雇用の上限年齢は、第68条第2項に規定する年齢（以下、この条において「上限年齢」という。）とし、当該年齢に達した日以後における最初の3月31日に退職する。ただし、任命権者が特に必要と認める者にあつては、上限年齢を超えて雇用することができるものとする。

技術職員の配置状況

令和5年2月1日現在

組織名称	業務	人数
数理物質系技術室	数理物質系及び関連組織における教育・研究活動支援	11
システム情報系技術室	システム情報系及び関連組織における教育・研究活動支援	11
生命環境系技術室	生命環境系及び関連組織における教育・研究活動支援	18
医学医療系技術室	医学医療系及び関連組織における教育・研究活動支援	26
つくば機能植物イノベーション研究センター技術室	農林学におけるフィールド教育・研究に関わる支援業務	16
研究基盤総合センター技術室	静電加速器、低温発生機器、各種分析機器、各種工作機械等の管理・運用、研究・教育支援の高度化のための機器開発	9
アイソトープ環境動態研究センター	放射線業務従事者登録・教育・管理、放射性同位元素、X線発生装置、放射線測定機等の取扱い技術支援、放射線施設の維持管理 実験水路施設保守管理、観測圃場保守管理・草刈対応、会計事務及び庶務、工作棟管理・装置製作指導、職場巡視業務	4
学術情報メディアセンター	基幹ネットワークや全学計算機システムなどの全学的な情報基盤の管理運用、並びに、ビデオ制作やマルチメディアコンテンツの配信・制作支援業務	9
総務部リスク・安全管理課	労働安全衛生に関すること、実験環境管理に関すること、実験廃棄物処理に関すること	4
グローバルコミュニケーション教育センター	機器保守管理、語学教育支援、見学対応	1
プラズマ研究センター	大型実験装置の運転、研究実験の技術的サポート（電気・機械・情報・ネットワーク関連）	4
下田臨海実験センター	センターでの教育及び研究活動の支援、学外からの見学対応	3
計算科学研究センター	センター研究活動に要する計算機類・設備類・ネットワーク・ユーザ情報等の管理運用、及びワークショップ等支援、ホームページ運用等	2
体育芸術エリア支援室	芸術系及び関連組織における教育・研究活動支援	1
附属坂戸高等学校	工業科施設管理、実習補助、学務処理計算機システムの運営・管理	1
理療科教員養成施設	鍼灸臨床と鍼灸の教員養成に関わる支援業務	2

※非常勤職員を除く。

URAの配置状況

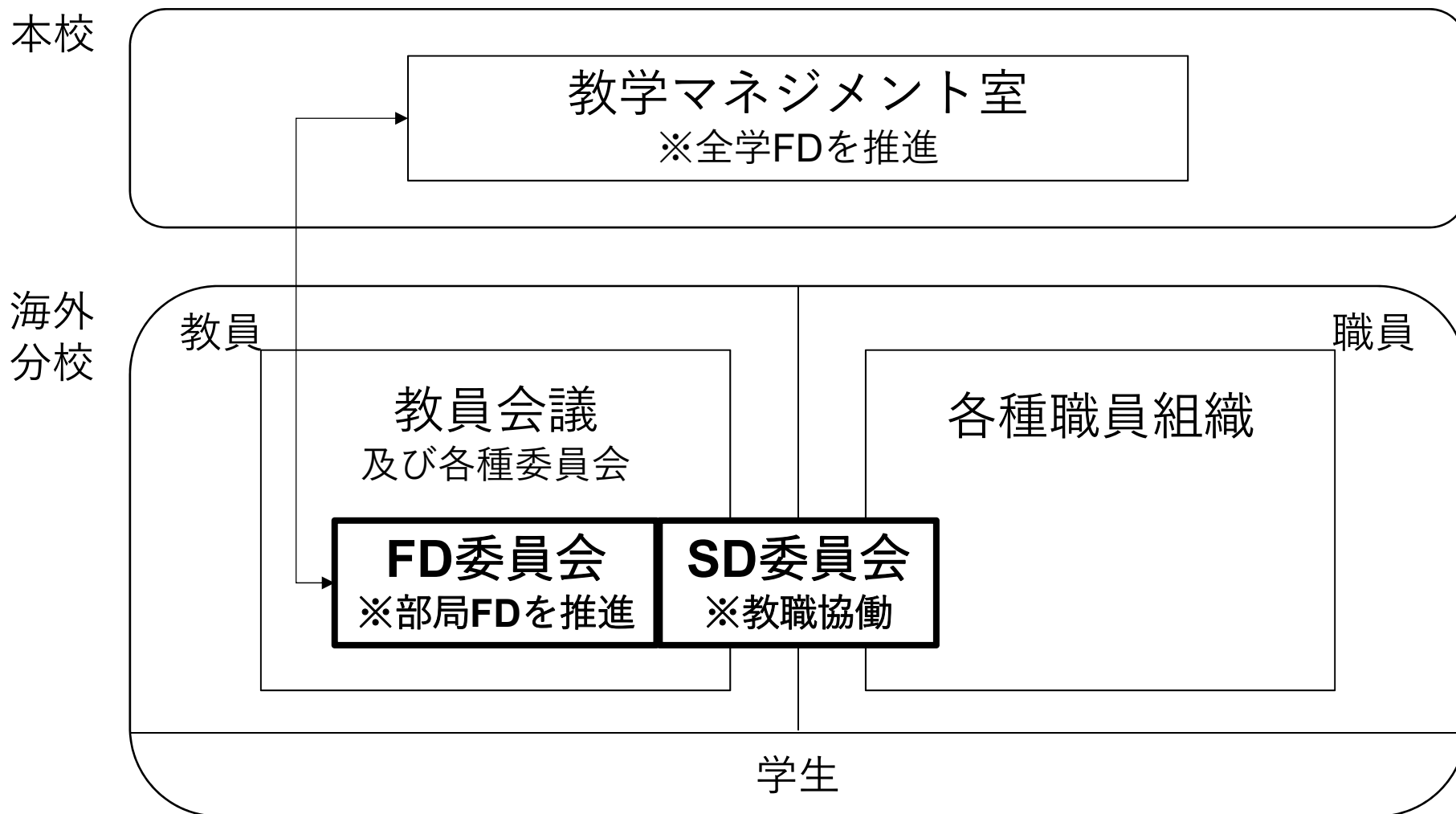
令和4年12月1日現在

区分	職名	人数
本部	専門職員（チーフURA）	6
	リサーチ・アドミニストレーター	1
産学連携部	リサーチ・アドミニストレーター	1
部局	リサーチ・アドミニストレーター（人文社会系）	1
	リサーチ・アドミニストレーター（システム情報系）	1
	リサーチ・アドミニストレーター（人間系）	1
	リサーチ・アドミニストレーター（芸術系）	1
	リサーチ・アドミニストレーター（医学医療系）	1
	リサーチ・アドミニストレーター（図書館情報メディア系）	1
	リサーチ・アドミニストレーター（アイソトープ環境動態研究センター）	1
	リサーチ・アドミニストレーター（つくば機能植物イノベーション研究センター）	1
	リサーチ・アドミニストレーター（つくば臨床医学研究開発機構）	1
	リサーチ・アドミニストレーター（人工知能科学センター）	1
若手研究者 育成支援室	リサーチ・アドミニストレーター	3

資料 20 施設借用に関するマラヤ大学との基本合意書

- ・ 本学がマラヤ大学の施設等を借用することについて、両大学間の協議により合意した事項についてまとめたもの（写し）（非公開）【資料 20（64～72 ページ）】

海外分校におけるFD委員会及びSD委員会の位置付け



PBL授業を柱とした教育による 社会的・職業的自立に関する体制

